

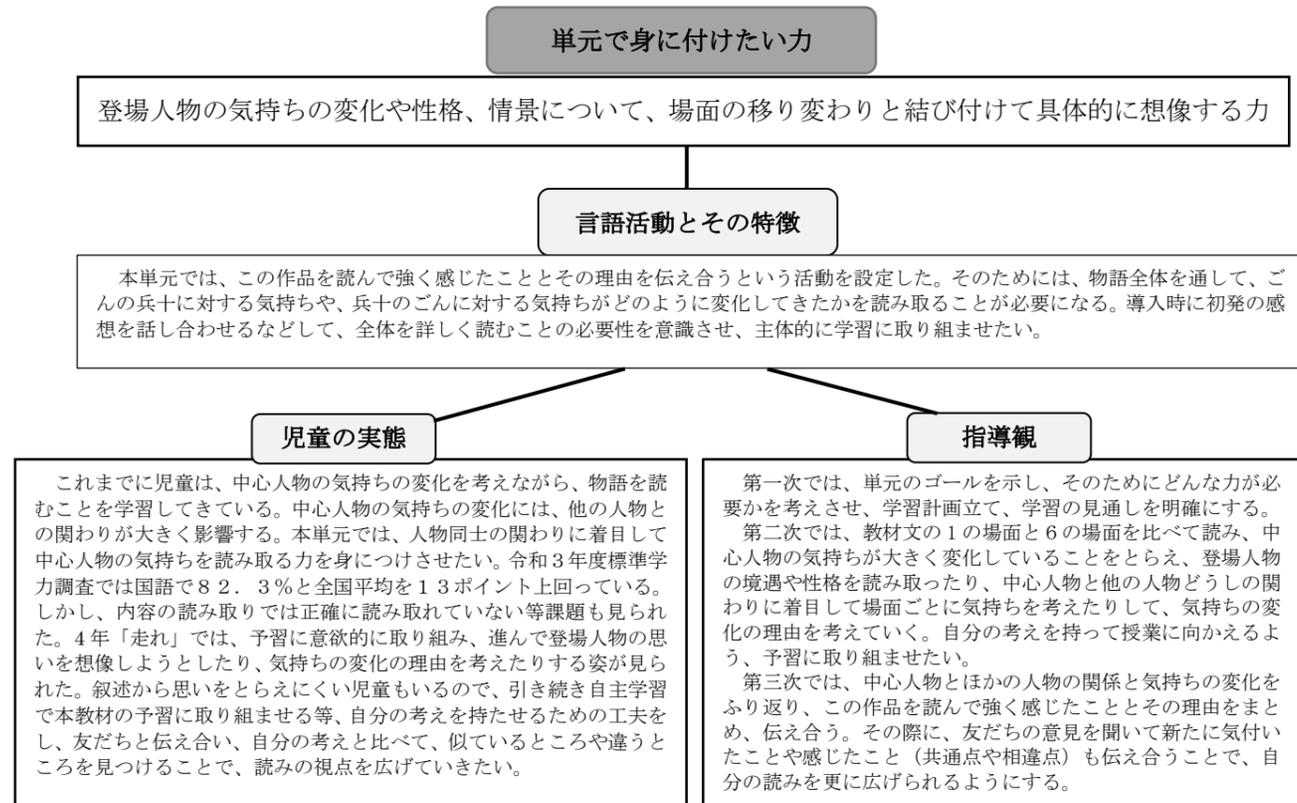
第4学年 国語科学習指導案

【令和3年10月27日(水) 第6校時 大用小学校 4学年:6名 授業者 神谷 朋昭】

(第4学年)

◆単元名「読んで考えたことを伝え合おう」

1 単元構想



2 単元の目標及び評価規準

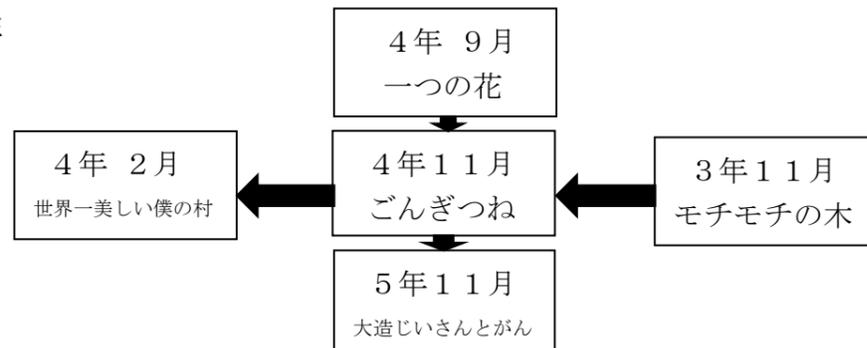
(1) 単元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文中で使うことができる。	①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像できる。	①言葉が持つよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。

(2) 単元の評価規準 [下線部:重点指導事項]

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文中で使っている。	①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。	①粘り強く感想や考えを持ち、これまでの学習を活かして、伝え合おうとしている。

3 単元の系統性



4 研究主題に関わって

研究主題: 確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成

- 国語の見方・考え方を働かせる手立てを焦点化させる。
 - ・見方・考え方をどの場面で働かせたいのかを考え、意図的に設定する。
- 自分や友だちの考えを働かせる手立てをする。
 - ・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動を設定する。
- 家庭学習(特に予習)を授業の中で生かす場面をつくる。
 - ・意図的に家庭学習を生かす場面をつくる。

5 学習の流れ [全13時間]

学習過程	主な学習内容及び学習活動	評価の計画及び評価規準、評価の方	言語活動
第一次 (つかむ) 第二次(取り組む) 精査・解釈 考えの形成・共有	①単元の目的を理解し、学習の見通しを立てる。 ・強く感じたこととその理由を伝え合うという単元のゴールを確認し、学習の見通しを持つ。 ・単元のゴールのために付けたい力を確認し、学習計画を立てる。	【知識・技能】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文中で使っている。(ノート)	この作品を読んで、強く感じたこととその理由を伝え合う。
	②1と6の場面を読みくらべ、大きい気持ちの変化があったことをとらえる。 ③ごんの人物像と、ごんに対するほかの人物(兵十や村人)の思いを考える。 ④ごんの気持ちが変化するきっかけを考える。 ⑤～⑧ごんの行動や様子、心内語等から、ごんの兵十に対する思いを考える。 ⑨ごんと兵十の間わりとお互いの気持ちについて考える。(本時9/13) ⑩6の場面のごんと兵十の思いを考える。 ⑪⑫この作品を読んで、強く感じたこととその理由を叙述を基にまとめ、伝え合う。		
第三次 (振り返る)	⑬単元の学習を振り返る。 ・友だちの意見を聞いて更に考えたことをまとめ、付けたい力が付いたか、これからその力をどんな場面で活かそうかを考え、今後の学習意欲を高める。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・粘り強く感想や考えを持ち、これまでの学習を活かして、伝え合おうとしている。(観察・発言・ノート)	
単元終了時に目指す児童の姿 ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する姿			

4 本時の学習

(1) 目標

第4学年

(本時9 / 13)

これまでの場面をふり返り、ごんと兵十の気持ちを考えることができる。

(2) 展開

学習活動及び学習内容	主な発問 (※) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (○) 評価 (★)
1. 前時までの学習を想起する。 2. 本時のめあてを確認する。		○前時までに学習した内容を確認する。 ○単元のゴールも確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> これまでの場面をふりかえって、ごんと兵十の気持ちを読み取ろう。 </div>		
3. 挿絵を並べ替え、ごんと兵十のきよりを考える。	※挿絵を出来事の順に並べ替えましょう。 ※ごんと兵十の「きより」で気が付いたことはありますか？ ・少しずつ近付いている。	○挿絵を使って二人の関係を考えさせる。
4. それぞれの場面のごんと兵十のお互いの気持ちを考える。	※これまでの場面のごんと兵十の気持ちを、行動や様子、心内語などから考えましょう。 (ごん) ・もっとつぐないをしよう。 ・神様にお礼なんかしないで、気づいてほしい。 (兵十) ・ぬすとぎつねめ、ゆるさない。 ・兵十のごんに対する気持ちは変わらない。	○単なる想像ではなく、叙述をもとに考えさせる。 ○考える場所を焦点化させる ★これまでの場面をふり返り、ごんと兵十の気持ちを考えることができる。(思考・判断・表現)
5. 本時の学習をまとめ、振り返りをする。		

(3) 準備物

挿絵 (ごんと兵十と一緒に描かれている絵)

(4) 板書

ふりかえり

⑥ 挿絵

⑤ 挿絵

④ 挿絵

③ 挿絵

② 挿絵

① 挿絵

めあて

兵十

ごん

「いんぎつね」

新美南吉

これまで場面をふりかえって、ごんと兵十の気持ちを読み取ろう。

強く感じたこととその理由を伝え合うために